

# 小学生英語スピーチコンテスト ～世界にはばたく子どもたちの“ちから”～

公益財団法人秋田県国際交流協会

## クレア「多文化共生のまちづくり促進事業」助成金

クレアでは、地方公共団体や地域国際化協会が実施する多文化共生を推進する事業のうち、特に重要性、必要性が高く、他団体の範となる事業について、助成金を交付しています。

今回は、2013年度に助成を行った事業の中から、公益財団法人秋田県国際交流協会が実施した「在住外国人との協働による多文化共生推進事業」について、ご紹介します。

## フェスティバルのリニューアル

秋田県国際交流協会では、県民と在住外国人が気軽に交流できる場として、毎年「あきた国際フェスティバル」を開催しており、2013年9月28日の開催で25回目を迎えました。民間団体の国際交流・国際協力活動を紹介するブースや、外国人が母国を紹介するブースを出展し、来場者と自由に交流を行ってもらうことで、異文化に触れる貴重な機会となり、県民の国際交流活動に対する意識を高めました。

しかし、近年の来場者数は3千人と横ばいで、次世代を担う小中高生の割合は1割程度にとどまっています。このことから、私たちは県民の国際理解、特に青少年の国際理解を深める必要性を改めて感じていました。そこで、より多くの県民に来場いただき、特に子どもたちに異文化への興味を持ってもらいたいと考え、子どもから大人まで幅広い世代が楽しみながら異文化理解を深めることができるように、「遊び」と「学び」をテーマに従来のフェスティバルをより魅力ある内容にリニューアルしました。

実施にあたってはクレアの「多文化共生のまちづくり促進事業」助成金を活用し、これまでの内容にとらわれない新しい発想と外国人の視点を取り入れるため、2人の外国出身の方にフェスティバル企画実行委員をお願いしました。実行委員として、2012年度の内容を振り返っての改善点、外国人として自

国のどんなことを紹介したいか、子どもたちや外国人への効果的な周知方法などについて意見を出してもらい、フェスティバル当日もブース出展、文化紹介、ステージパフォーマンスなど幅広く活動してもらい、フェスティバルの成功につながりました。



“ちから”を発揮した子どもたち

## 小学生の驚異の“ちから”

外国人の実行委員以外にも、フェスティバル成功の「カギ」の1つに、「小学生英語スピーチコンテスト」があります。コンテストには小学1年から6年まで24人の児童が出場しました。当日は、100人を超える来場者が会場を訪れ、会場は満員御礼となりました。子どもたちは、特定のテーマを設けず3分間自由に発表を行いました。そして、4人の審査員が、内容・英語力・表現力について審査をし、低・高学年ごとに優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞を選考し、表彰を行いました。

子どもたちは、夏休みの留学、家族旅行あるいは海外での生活など外国での体験や、ホストファミリーとして外国人を家族として迎えた経験、教会で外国人の友だちと出会ったことなど、さまざまな機会を

通して外国の子どもたちと交流をし、そこから学んだこと、感じたことについて、来場者の前でジェスチャーを交えて堂々と発表しました。折しも、2020年のオリンピック・パラリンピック招致のプレゼンテーションが話題となっていた時期でしたが、子どもたちの発表は私たちの心を動かすものがあり、彼らの伝える“ちから”に驚きました。



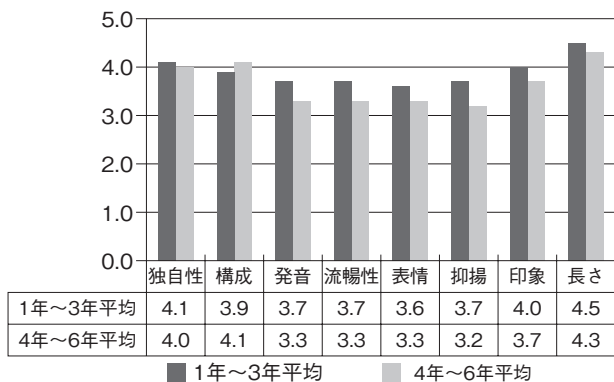
低学年の部優勝者  
ジェスチャーに注目

コンテストの目的は、英語を学ぶことを通して言葉や文化の違いを認め、異文化への理解を深めることでしたが、私たちが想像していた以上に子どもたちは多様な経験を通して異文化に接しており、偏見や先入観のない素直な気持ちでそれらを受け入れています。互いに理解し合っている姿にとっても驚いたと同時に、子どもたちの異文化を理解する“ちから”を改めて認識しました。そして、この子どもたちの姿に、国籍や文化や言葉が違って、お互いにその違いを認め合って生きていく多文化共生社会そのものを感じました。

そこで、発表した子どもたちのその“ちから”をより多くの方に伝えるために、スピーチの内容について一冊の報告書にまとめ、県内の全ての小学校と教育委員会に配付しました。この報告書が多くの教育関係者に読まれることにより、学校での国際理解、異文化理解の活動に役立つこと、また、多くの子どもたちが報告書を読んで、外国に興味を持ち、異文化に対する関心を高めることを期待しています。

なお、審査結果はグラフのとおりですが、1年生から3年生の発表が4年生以上の発表より優位に

学年別審査結果



なっています。全体の構成は高学年にはかなわないものの、発音や流暢性などの英語の“ちから”、表情や抑揚、印象などを伝える“ちから”は学年には関係ないようです。低学年の子どもたちの発表の多くは、「世界中の人と仲良くなりたい」、「夢は100人の友だちを世界中につくること」、「言葉も見た目も違うけど、お友だちの国や家のことをもっと知りたい」など、「世界中の子どもたちと仲良くなりたい。そのためのコミュニケーションの手段として英語が上手になりたい」という内容でした。早い時期に英語を通してさまざまな国の人々に接し、「相手に自分の気持ちを伝えたい」、「仲良くなりたい」という純粋な気持ちが、子どもたちの伝える“ちから”を向上させているのかもしれない。

## フェスティバルを終えて

今回のフェスティバルは4,500人を超える来場があったほか、外国人による文化の紹介を行った国や出展ブースの数も例年を超え、大成功を収めることができました。来場者には、ステージで行われたたくさんの国のダンスや歌に満足していただき、ブース出展者との交流も楽しんでいただけました。スピーチコンテストでは、子どもたちの英語のスピーチに感銘を受けるとともに、異文化に触れる素晴らしいさを感じ取ったに違いありません。

フェスティバルでは、子どもたちのたくさんの“ちから”を発見しました。この“ちから”は多文化共生社会をつくるための大きな“ちから”でもあります。次世代を担う国際人を育て、県民の異文化理解を推進するために、今後もクレアの助成金を活用して新たな事業を展開してまいります。



高学年の部優勝者  
こちらも手の動きに注目

### お問い合わせ先

(一財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課  
TEL:03-5213-1725  
E-mail: tabunka@clair.or.jp  
Web: <http://www.clair.or.jp/j/multiculture/kokusai/page-8.html>